

常磐線佐貫駅周辺地域整備基本構想に係る意見交換会会議録（松葉）

日時	平成 28 年 2 月 6 日（土） 10 時 00 分～11 時 30 分	
場所	松葉コミュニティセンター	
出席者	市民	23 名
	市	中山市長 松尾総合政策部長，企画課：宮川課長，大貫課長補佐，廣田課長補佐，関ヶ原係長，沼崎係長，原田副主査，小崎主幹
	その他	株式会社日本総合研究所
配布資料	<ul style="list-style-type: none"> ・ 市民の皆さんとの意見交換会 次第 ・ 常磐線佐貫駅周辺地域整備基本構想（案）策定に係る検討状況について ・ アンケート用紙 	

【市民から出された主な意見（まとめ）】

- ・ 道の駅・牛久沼の活用について
 - 道の駅は具体的にどの辺りにできるのか。
 - 「沼と道の駅」など牛久沼を有効活用すべき。
 - 牛久沼の利活用のみならず，保全も考えるべきだ。
 - マラソンコースやサイクリングコースとしての活用もできるはず。
- ・ 駅周辺の改善について
 - 駅周辺に保育所や幼稚園があればより子育て世代を支援できるのではないか。
 - 佐貫駅の高いポテンシャルとは，他市町村と比較しているのであればそうは言えないと思う。ポテンシャルを更に高めるという考え方を持つべき。
- ・ 構想の内容について
 - 働く人に住んでもらうための施策を長期的に組み込むべきだ。
 - 平成 23 年度の重点施策から，ここが変わったという点を知りたい。
 - 開発自体をまったくの白紙から考えるのか，既存建物を利用して行うのか等明確に示してほしい。
 - 費用の無駄遣いとならないよう，投資の是非を慎重に判断してほしい。
 - 全国どこにもない龍ヶ崎独自の取組を行ってほしい。
 - 高齢者の住みやすい環境を作っていくことが当面の龍ヶ崎の活性化につながるのではないか。
 - テレビやマスコミに取り上げてもらい，知名度を上げるべきだ。
- ・ その他
 - 台の下地区の豊かな自然環境を保全し，活用した開発としてほしい。

【意見交換会内容】

1. 開会，市長あいさつ

司会より開会のあいさつ，続いて，中山市長よりあいさつ。

2. 市からの説明

(1) 開催趣旨について

市より開催趣旨についての説明。

(2) 常磐線佐貫駅周辺地域整備基本構想（案）策定に係る検討状況について

市より検討状況について、スライドを用いて説明。

3. 意見交換

- ・ (市民) 今一番重要なことは、「働く人が住むこと」だ。ビジネスそのものを作り出す人を連れてくるような施策が必要。人材を集めて育てられるような長期計画が入っているべき。20年、30年を見据えて、住んでもらう人を増やすべきだ。
 - (市) 佐貫駅周辺地域の一番のメリットは、鉄道の駅から徒歩圏にあることである。そういう意味で、ビジネスセンターのような、働く人にとっての環境を整えるポテンシャルを有している。

住んでもらう人を集める、仕事を創造する人を呼び込むという施策は長期的なビジョンに当たり、これから策定する戦略プランにも取り込む必要があると考えている。

それを実現する場の一つとして佐貫駅周辺地域は重要だと考える。

- ・ (市民) 子ども送迎ステーションを設けての送迎だけではなく、駅の近くに保育所や幼稚園ができれば通勤がもっと楽になる。

共働きの夫婦にとって朝夕の送迎も必要であるが、そこまでやるのであれば、駅前を整備するのに合わせ保育所や幼稚園を作れば良いのではないか。そういった施策があればいいと思う。

 - (市) 駅前の子ども送迎ステーションは他の自治体でも実践されており、子育て世帯の役に立っている。龍ヶ崎市でも、今年の6月に実現することとなった。事前周知も行っていきたい。

子ども送迎ステーションの内容としては、送迎ステーションに預けていただければ、それぞれの通う保育所や幼稚園に送迎するというものである。

また、施設整備に合わせ、子供達が昼間も過ごせるよう、子育て支援センターとしての機能も持たせる予定である。

スタートしてみなければ反響は分からないが、将来的に需要が大きくなれば、別の送迎のしやすい場所での拡充も検討したいと考えている。

保育所・幼稚園が市内に偏在しているという問題は認識している。少子化で子どもが減っているにもかかわらず、共働き世帯の増加で保育所需要は伸びている点も踏まえ、今後整備をする場合には、佐貫駅前を含め検討していきたい。

- ・ (市民) 資料全般について具体的なことが見えないが、道の駅はどの辺りにできるのか。

 - (市) 旧京成バラ園跡地付近の 32,000 m² (約 1 万坪) の土地で計画している。

- ・ (市民) 市民の提案の中で「沼の駅」とあったが、どうせなら「沼と道の駅」などにして牛久沼を有効活用すべきでは。

 - (市) 形では道の駅を想定しているが、沼の駅という可能性も踏まえ取り組んでいきたい。また、防災拠点としての機能も持たせたい。
都心からの最初の休憩地ともなるので、それにふさわしい機能も持たせたい。
道の駅の整備に当たっても、市民の意見を聴きながら進めていきたい。

- ・ (市民) 牛久沼にはこれまでも水際線計画等があったが、利活用だけでなく、保全的な側面も検討するべきではないか。

 - (市) 水質保全計画も県と協議して進めている。環境に視点を当てていくことは大切なことであり、牛久沼を含めた周辺的环境保全についても考えていきたい。

- ・ (市民) 牛久沼は 2 週でフルマラソンの距離にもなる。マラソンコースなど、利活用の方法は多いはず。

 - (市) 牛久沼を十分に利活用できていない現状にある。様々な課題をクリアして、ランニングコースやサイクリングコースなど、周辺地域と連携して魅力ある空間ができればと考えている。
道の駅は牛久沼の有効活用の拠点にもなると考えているので、是非成功させたい。

- ・ (市民) ふるさと龍ヶ崎戦略プランでは、人口 83, 000 人を目指し重点戦略を掲げていたが、今回の資料を見ると、ほとんど内容が変わっていないと思う。H23 年時点から、ここが違うという点を教えてほしい。

 - (市) 現行の戦略プランの重点戦略については、これからも大切な戦略であると考えているが、次期の戦略プランの策定に当たっては、時代の流れを考慮していきたい。
83, 000 人という人口は、あえて高い目標を掲げたものであるが、現在は、人口減少の潮流が明らかであるので、次期の戦略プランでは、人口減少を見据えた施策を立てることがポイントとなる。

- ・ (市民) 今回はあくまで青写真の前段階という話があったが、この構想は白紙状態からの開発と考えているのか、今ある建物を活かしたリフォームなのか、あるいはその中間として考えているのか。今ある建物を壊してでも駅周辺に施設を集約させるとい

う意図があるのか等を教えてほしい。

➤ (市) 駅周辺については、全くの再開発というような発想は持っていない。ただし、未利用地を有効活用するための取組は必要だと考えている。

台の下の未利用地については、駅から徒歩10分圏内であり、そのポテンシャルを活かさなければならないと考えている。

・ (市民) 中途半端な開発であれば、費用の無駄遣いとなる。もっと大きなスケールで考え、投資の是非を検討しなければならないのではないか。

➤ (市) この基本構想は、数年で終わるプランではないと考えている。10年、20年というスパンで検討し、未来を見据えたものとしていきたい。

・ (市民) 佐貫駅周辺地域の高いポテンシャルとは、どこと比較して高いポテンシャルなのか。もし、他市町村と比較するのであれば、ポテンシャルが高いとは言えないと思う。もし言うのであれば、「ポテンシャルを更に高め〜」ではないか。

➤ (市) 佐貫駅周辺地域は、市内で見てもポテンシャルの高いエリアであり、人口増加の可能性をまだ秘めていると考えている。

普遍的な概念として、駅周辺の持つポテンシャルは高いと考えている。茨城県の人口減少の流れの中で、TX沿線や常磐線沿線などでは今でも人口が増えている地域がある。そのような駅周辺地域の持つポテンシャルを高めたい。

首都圏全体という概念では確かに競争できない部分もあるが、龍ヶ崎の自然環境を誇りに思い、住んでいる人が自慢したくなるまちとすることが重要だと考えている。

「持っているポテンシャルを更に高める」という考え方は、是非参考にしたい。

・ (市民) コンサルタント会社は、他の都市にも同じような提案をすると思うので、そうではなく龍ヶ崎の、全国どこにもないオリジナルな提案をしてほしい。

龍ヶ崎という地名は他になく、「龍」という世界に通用する象徴的な名前を活かしてほしい。

➤ (市) 意見として今後の参考とする。

・ (市民) まちづくりの方向性について、「子育て環境日本一」はそのまま継続し、更に「老人の住みやすいまち」という施策を入れてほしい。

子どもは増えないが老人は増えているので、老人を対象とした施策が逆に市の当面の活性化につながるのではないか。

➤ (市) 龍ヶ崎市でも少子高齢化は進んでいる。本来長寿はおめでたいことであるが、介護問題や認知症の問題への取組を続けていくことや、次期の戦略プランの

施策に組み込んでいくことも重要だと考える。

健康寿命，健幸力を向上させていくとともに，高齢者を支える世代の支援も並行して考えていきたい。

- ・ (市民) 今後はどの自治体でも若い人の取り合いになる。他の自治体が考えない，良い提案を考えるべきだ。発想の転換で，高齢者の住みやすいまちとはどのようなまちであるかを考えるべきだ。

龍ヶ崎市が有名になるよう，マスコミに取り上げられるような新しい高齢者が住みやすいまちを作るべきだ。他所でやっていないことを進めていくべき。

- (市) マスコミの力は大きいと考えている。テレビ番組で取り上げてもらえるようなことも考えていきたいが，マスコミの効果は一過性のものであり，そうではなくサステイナブルな取組をしている市として，一過性でない持続可能な地域経営をしていかなければならない。

首都圏近郊の自治体として，都心部の介護難民を受け入れる体制を構築することを国が促進するという動向も出てきている。そのような動向に対する龍ヶ崎市のスタンスも決めていかなければならない。

龍ヶ崎市では各世代が交流しながらまちづくりを進めていくことを促進したい。

高齢者も多世代と交流しながら，生き生きと健康寿命を過ごせるようにしていきたい。

- ・ (市民) 自然環境に対する視点が少ない。若柴台の下の開発がなされるということだが，この地区はホテルも飛んでいるような自然環境が豊かな場所である。

- ・ また，最近では地元の人同士でホテルの養殖等も始めている。

そのような場所であるので，是非自然環境を生かした開発としてほしい。

台の下地区には，先人が残した自然遺産，種井なども残されている。その他，オオタカなど希少動物も飛んできている。

南面の照葉樹林帯も含め，そのような緑を残した，あるいは活かした開発としてほしい。

- (市) 自然環境に配慮しなければならぬと考えている。整備をしていく中で一緒に開発するのではなく，例えば，法面の下に帯状の公園を作ったり，公園の中に種井を残していくなど，残すべきもの残し，活かしていくことも重要だと考えている。